

DX実現までは長い道のりです。私たちがお客様のDX実現に伴走します！

私たちと一緒にはじめましょう！ もう一度！分かりやすくまとめます！

今こそ知りたいDX/
vol.11

毎月DXについて情報を提供させてもらいましたが、ここで基本をもう一度振り返ります。重要なポイントに絞って、わかりにくいDXをわかりやすくご説明します！

私たち自身もしっかり学び直しをしながら、お客様と共に推進していきます。



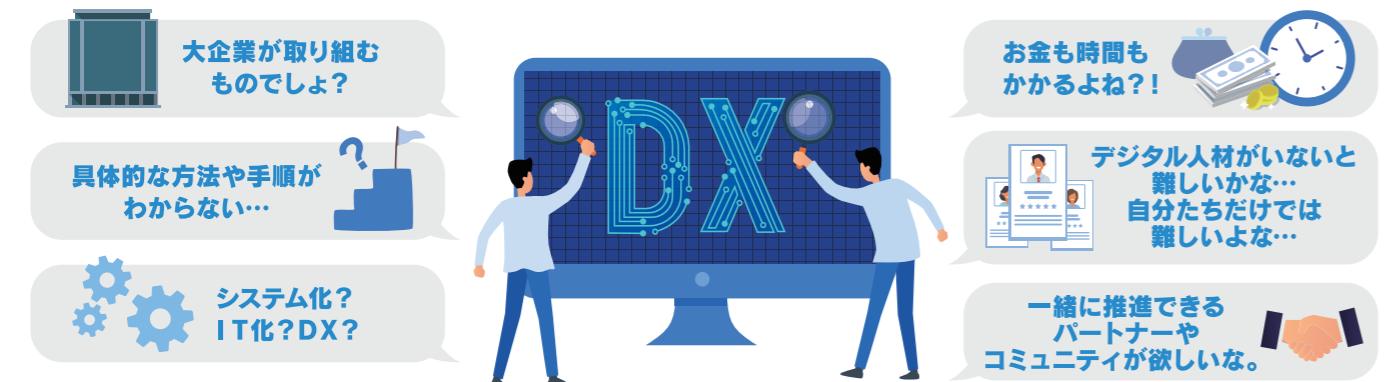
今回のポイント！

Point 01 言葉先行のビッグワード
「DX」を分かりやすく！

Point 02 まずはデジタイゼーション！
お客様の情報がいかに大切か再確認！

Point 03 レガシーシステムを可視化する！

\DXのイメージってどんなもの？／



DXという言葉自体は広く浸透しましたが、言葉のみが先行し、具体的なアクションややり方、ゴール設定が見えてこないかもしれません。

それでも避けては通れませんよね？そして、これからのDXで…

社会や市場は？

- デジタル社会がさらに進み、デジタルディバイド（格差）への対応が必須
- 少子高齢化が進行し、生産労働人口の減少が現実的な問題
- 専門性の高いエンジニアが世代を重ね、IT人材がさらに不足
- パンデミック、災害、有事への対策、デジタルディスラプターのさらなる台頭によるビジネスの変化

人々の生活は？

- 便利に暮らすためには、スマホやデジタルサービス、デジタル情報を上手に活用する必要がある



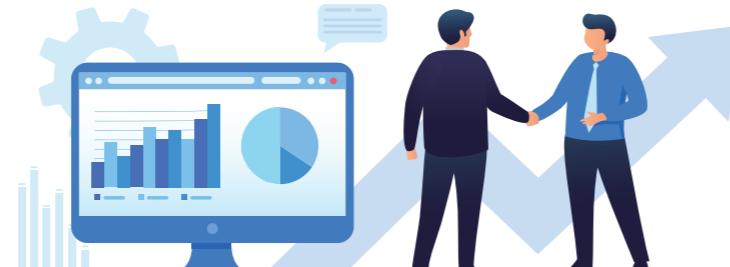
仕事に置き換えると？

- デジタルデータやデジタル技術を上手に使えない…仕事そのものが効率的でなく非効率になる
- 業務・事業活動の生産性が低く、非生産的になる
- 企業の利益を損なうことになる



DXは企業戦略です。人や組織、風土、システムやICT、仕事そのものの全体を俯瞰して進めるべきであり、自社のすべてを見直し刷新することがゴールとなります。

私たちはお客様のゴールに向かって、
データ活用とデジタル技術活用の側面で
しっかりと伴走し続けます。



DXの定義／

01

エリック・ストルターマン教授の定義
(DXを最初に提唱したスウェーデンの教授)

ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。



02

経済産業省：
デジタルガバナンス・コード2.0における定義

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革とともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

03

総務省：令和3年情報通信白書における定義

企業が外部エコシステム（顧客、市場）の劇的な変化に対応しつつ、内部エコシステム（組織、文化、従業員）の変革を牽引しながら、第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ/アナリティクス、ソーシャル技術）を利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通して、ネットとリアルの両面での顧客エクスペリエンスの変革を図ることで価値を創出し、競争上の優位性を確立すること。



「私たちはDXを
ズバリこのように
定義しています！」

データとテクノロジーを活用し、稼ぐ力と
強靭な体质を創り、持続的成長を可能にする。

＼ DX実現までのフェーズ ／

DXの前段階として、「デジタイゼーション」と「デジタライゼーション」があります。
それぞれの定義を確認して、具体的な施策を少し整理してみましょう。

デジタイゼーション (Digitization)

既存の紙のプロセスを自動化するなど、
物質的な情報をデジタル形式に変換すること
(総務省 令和3年情報通信白書より引用)

デジタイゼーション
Digitization



アナログからデジタルへの転換フェーズ。具体的には、紙で管理していたものをWordやExcelでの管理に変える、紙をPDF化して電子的に保存する、郵送といった紙でのやり取りをメールやチャットに置き換える等。

デジタライゼーション (Digitalization)

組織のビジネスモデル全体を一新し、クライアントやパートナーに対してサービスを提供するより良い方法を構築すること (総務省 令和3年情報通信白書より引用)

デジタライゼーション
Digitalization



デジタイゼーションのフェーズでデジタル化されたデータが共有・活用され、効率性や収益性の向上が成果として現れるフェーズ。例えば、クラウドアプリケーションを連携させ、業務の全体最適化、効率化を実現する等。

デジタル
トランスフォーメーション
Digital transformation



破壊と創造。つまり、既成概念や従来の制度、組織文化をも破壊し、それと同時に新たな価値やビジネスモデルを創出するフェーズ。
お客様自身の変革フェーズ。

＼ データ > テクノロジーの構図 ／

DXを推進していく上で、何より大切なのが「データ・情報」です。

アナログデータであれば正しくデジタル化し、デジタルデータは可視化・共有し、組織全体で活用できなくてはなりません。働く人すべてが信用できるデータ・情報にしなければいけません。これが正しい仕事の意思決定につながり、収益性の高い業務プロセスを創出することになります。
つまりデータドリブンです。

データドリブンとは？

正しいデータを基に正しく効率的な仕事を行い、ビジネスを加速させていくこと



現有のデータは正しく信頼ができるデータにするためにクリーニング(5S)を行いましょう。
そのためには「新しいハコ」が必要かもしれません。
新しく生成されるデータは、作成から廃棄までの「フロー」を正しく設計することが重要です。
業務フローの見直しとともにデータフロー・システムフローを慎重に検討しましょう。



＼ レガシーシステムを可視化しておきましょう ／

DXのための最重要プロセス

レガシーシステムって？具体的にどんなこと？

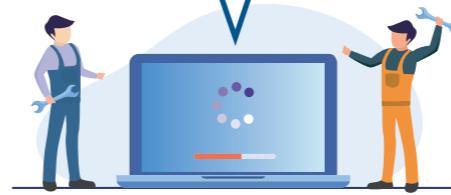
使い勝手がよく便利で、過去からのデータが蓄積されていて、長年利用し続けており刷新がしにくくなっているシステムやアプリケーション



開発したソフトウェア会社のサポートが切れていたり、保守・カスタマイズ費用が高額になつたりしているシステム

部門が独自活用したり、システムの一部分だけを最適化（項目追加等）したりして、システム自体が肥大化（増改築の繰り返し）し、本来の姿（基礎設計）が見えずブラックボックス化しているシステム

運用が属人化しており、次世代への引継ぎやアウトソーシング（外注）がしにくくなっているシステム



どんな企業にもレガシーシステムは存在します。
レガシーシステムそのものが悪いわけではありません。

長年しっかり活用してきたわけですから！
そのため簡単に入れ替えることは難しいですよね？！

レガシーシステムの将来的な課題と対策は？

ただ…このまま使い続けることが可能でしょうか？
レガシーシステムを使い続けることにはシステムダウンやセキュリティのリスクがあり、非効率化にもつながります。

さらには、オープン系のシステムとの連携や刷新の難易度が上がってしまいます。

まずはお客様のレガシーシステムを可視化しましょう。その上で私たち

DXパートナーとその情報や課題、将来への施策を共有させてください。

将来的なレガシーシステム刷新へ向けて、しっかりと伴走し続けます！



参考 レガシーシステムの刷新手法

レガシーシステムに蓄積された情報を活かす形で、近代的かつ機動的なシステムへと刷新・移行することを「モダナイゼーション」と言いますが、その方法は様々です。

① リプレイス

ソフトウェア、ハードウェアともに刷新する方法であり、システム全体を再構築します。レガシーシステムの基盤を最新のパッケージソフト等に移行するという方法が挙げられ、抜本的な改革に有効です。

② リホスト

仮想化技術等を用いて、ハードウェアやOSなどを新しいシステム基盤に移行する方法です。ソフトウェアやデータは変更なくそのまま移行されるため、インフラのみを刷新するイメージです。

③ リライト

現行システムに使用されているコードを新しい言語に書き換えて、既存システムの利用を継続する方法であり、レガシーシステムの機能や仕様は維持されます。

お客様の成長のため、私たちがDX推進パートナーとなり、寄り添い続けます！
デジタイゼーションの見直しから始め、デジタライゼーションへのステップアップをご提案させてください！

